

磯焼け対策に関する取組状況について

磯焼け対策のポイント

目標①：磯焼け域の拡大防止/藻場残存域の維持

アワビ等の主要漁場である外房海域等において、藻場のモニタリング及び食害対策等の取組を実施。

目標②：磯焼け域における藻場の回復

磯焼けが継続している内房海域で、藻場の回復を図るため、食害対策や海藻の胞子供給等の取組を実施。

1 磯焼けの状況

- **外房海域**：平成30年度の調査で、海域のほぼ全域（岩礁の87%）に藻場が繁茂していたが、近年磯焼けの兆候が見られ、その範囲が拡大。
- **内房海域**：平成29年度の調査で約57%の藻場の消失を確認。その後消失範囲が拡大し、殆どの海域で磯焼けが発生。



○ 磯焼けが発生・継続する要因

- ・ 県内でも地区により原因が異なるが、食害の影響が大きい。
- ・ 漁業者からは、高水温の影響や栄養塩不足などを懸念する声が上がっている。



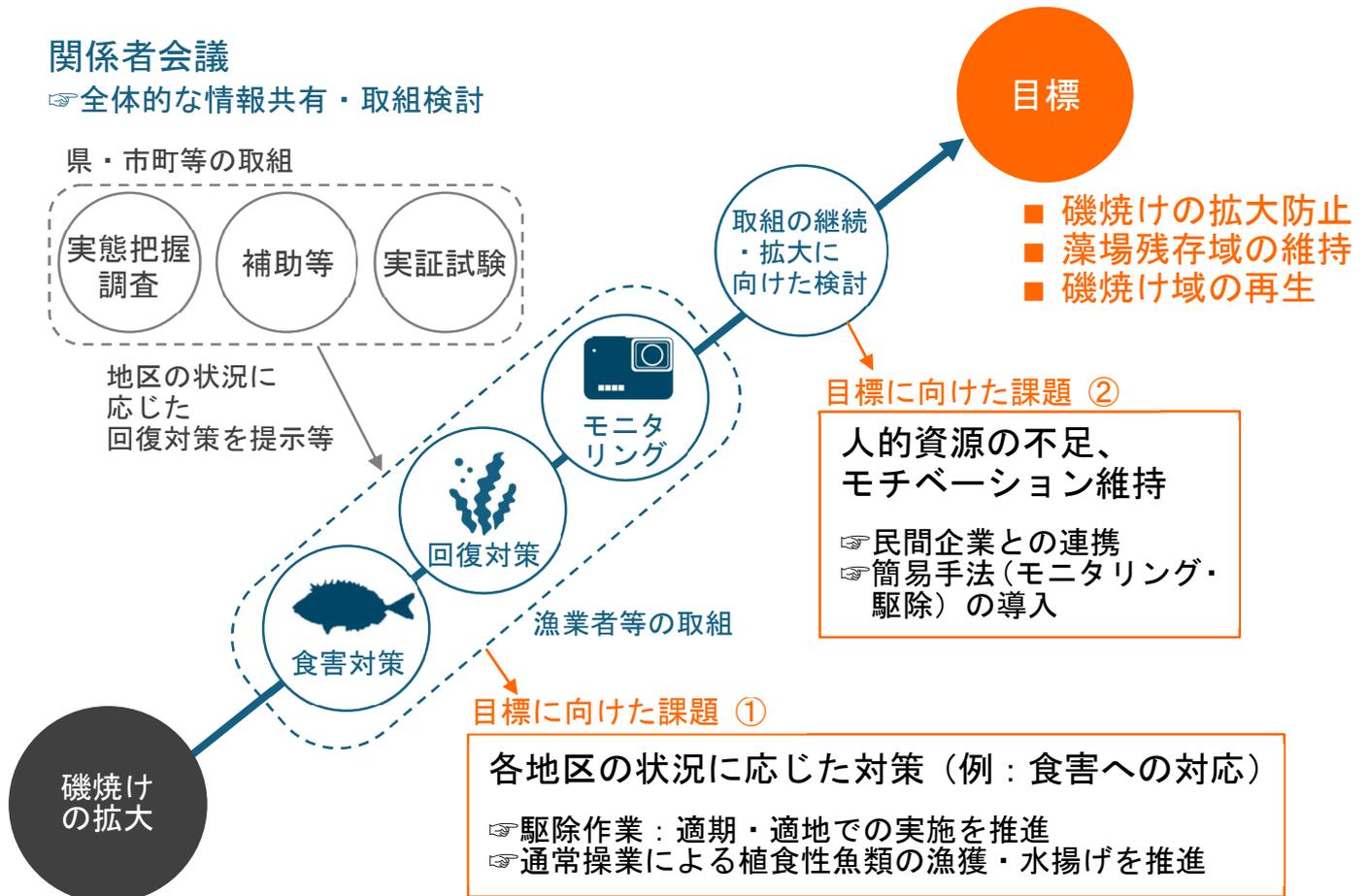
食害を受けた海藻



藻場を食害する魚類（ブダイ、アイゴ）

2 県内の主な取組

<目標に向けた進め方（イメージ）>



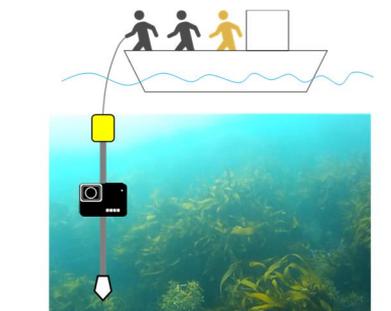
<取組の構成>

（1）藻場消失実態調査・対策指導（平成29～）

地区ごとに海藻及び食害生物の分布状況と藻場衰退の原因を調べ、状況に応じた対策を漁業者に指導。

（2）漁業者・水産事務所等の取組（令和3・4～）

- 外房海域（18 地区）：藻場のモニタリング及び植食性魚類駆除等の取組を実施し、磯焼けの拡大防止を図る。
- 内房海域（7 地区）：植食性魚類駆除及び海藻の胞子供給等の取組を実施し、藻場の回復を図る。



簡易手法によるモニタリング



刺網による植食性魚類駆除



スポアバッグの投入

(3) 実証試験

① 植食性魚類の漁獲促進（令和6～）

通常の刺網操業等で植食性魚類の積極的な漁獲・水揚げを推進するため、2地区で試験的な「買取り」を実施。

※魚・イセエビを対象とした刺網操業で植食性魚類が相当数混獲されること、他県（長崎県壱岐市）の事例に着想を得て開始。

☞一定数の水揚げを確認。

（内房:アイゴ等計1,491尾(574kg) 外房:ブダイ等計293尾(442kg)）

☞これまで植食性魚類を海に捨てていた漁業者による水揚げを確認。

② 「ブダイメンチ」の学校給食提供（令和6～）

植食性魚類の有効利用を推進するため、関係者の協力の下、高校生が開発した「ブダイメンチ」を学校給食に提供。

ブダイメンチ製作フロー（総括：水産事務所）



ブダイの確保
（地元の漁協）



ブダイの加工
（県漁連、加工業者）



学校給食での提供
（地元市町）



地元中学生を対象とした授業（水事）

(4) 関係者会議の開催（年2回程度）

関係者（県、県漁連、関係漁協等）が連携して効率的かつ効果的な対策を講じるため、「千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議」を開催し、藻場の現状把握や、維持・回復手法等を協議。

3 今後の取組

① モニタリングの徹底

☞磯焼けの兆候を早期に察知し対策につなげる。



② 食害への対応

☞刺網による駆除（駆除の効率化を検討）。

☞通常操業における植食性魚類の漁獲・水揚げ推進。

☞駆除した魚の有効利用。



③ 藻場の回復対策

☞スポアバッグの投入等。

☞アラメ・カジメ以外の海藻種（状況に応じて対応を検討）

※一部のホンダワラ類では、高水温耐性を有する種や食害を受けにくい種が存在。



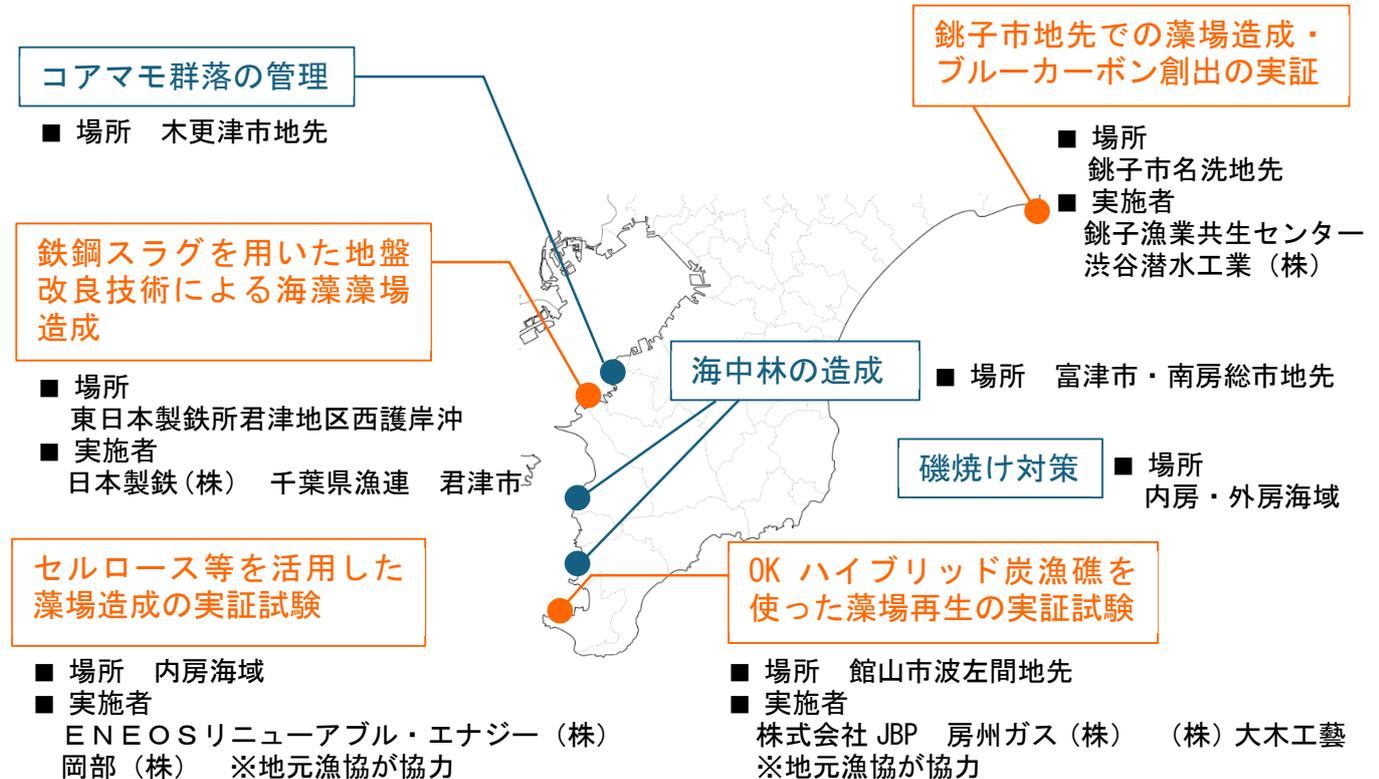
○ 多様な関係者との連携

☞ブルーカーボンへの関心の高まりに着目し、漁業関係者や民間企業等が連携した取組（藻場の保全・海藻養殖等）を推進。



<県内で実施されているブルーカーボン関連の取組>

※千葉県ブルーカーボン推進協議会（令和7年1月20日開催）資料をもとに作成



<千葉県ブルーカーボン推進協議会（令和7年1月開催）>

☞ブルーカーボンやJブルークレジットに関する基調講演、県内の取組事例紹介、及び次年度以降の取組予定に関する説明を実施。

☞ブルーカーボンに関する有識者、漁業関係団体、経済関係団体（民間企業）及び行政機関等が出席。

☞今後、普及啓発、漁業関係者と民間企業のマッチング等の活動を通じて、取組拡大を図る予定。



協議会の様子